

地域のさまざまな組織と連携して進める安全な学校づくり

あま市立伊福小学校PTA

1 はじめに

伊福小学校は学級数 14、児童数 438 名、PTA 会員数 354 名で、校区は名古屋市の西に隣接している。前身は七宝小学校の伊福分校であったが、昭和 49 年に分離独立し、今年度創立 40 周年を迎えた。田園風景が広がる自然豊かな地域で、古くから続く集落と新しい住宅地が融和した、落ち着いた学区である。地域や保護者の方々は学校にとっても協力的で、学校と一体となって子どもたちの健全育成に取り組んでいる。



【伊福小学校区】

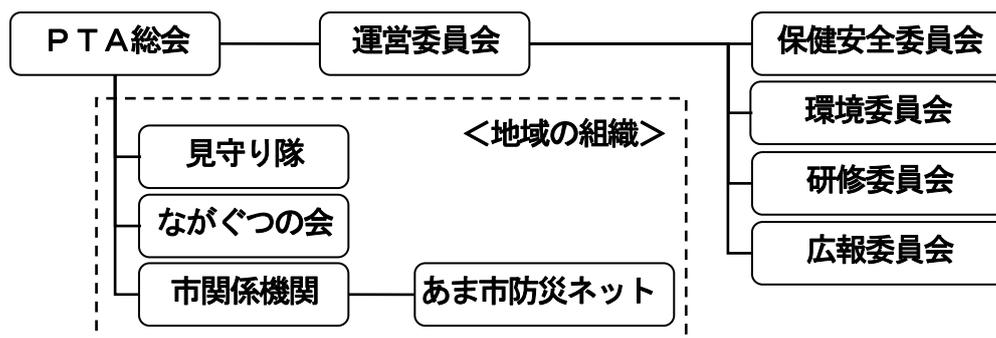
2 研究への取組

(1) 研究のねらい

本校のPTAは、待望の学校が開校した当時の思いを伝統として引き継ぎ、積極的に学校を支援しようとする気持ちにあふれている。歴代PTA役員をつながりも強く、それぞれの委員会が創意工夫しながら活発に活動を行っている。また、平成 14 年にPTA本部役員OBを中心としたながぐつの会（おやじの会）、平成 20 年に敬老会ボランティアによる見守り隊（スクールガード）が発足し、学校の環境整備や親子ふれあいのイベント、低学年の付添い下校等、学校を側面から支えている。

そのような中、日本中を震撼させた東日本大震災を契機に、学校でも防災教育に取り組み、大地震や水害等が起こっても、自分の命は自分で守り、互いに助け合ってたくましく生き抜こうとする子の育成を図ることとした。しかしながら、防災に関する取組は学校だけで完結するものではなく、PTAや地域住民、市の関係機関等の協力が不可欠である。そこで、地域のさまざまな組織と連携して防災、さらには災害の範囲を交通事故や不審者対応、ネット犯罪などに広げ、さまざまな危機から自分の身を守ろうとする児童を育成するため、総合的な安全教育を展開することにした。

(2) 組織



3 実践活動の概要

(1) 防災に関する取組

① 防災に関する講演（研修）会〔PTA・見守り隊・市関係機関〕

大災害が起こった時には、学校と地域、関係機関が共助して対応しなければならない。そこで、地域の防災意識を高めるために、地元の防災ネットワークコーディネーター等を講師に招き、PTAや教職員、見守り隊、関係機関を対象とした講演会や研修会を開催した。5回の講演会や学習会に延べ約600名が参加し、「大地震が起きたらどうなるか」「地域と学校の協力の大切さ」について学習を深めた。



【防災に関する研修会】

② PTA親子通学路点検〔PTA・見守り隊〕

通学路は児童によって異なるため、大災害が起こった時の状況もそれぞれ異なる。そこで、親子下校の際に、大地震や水害が起こった時の危険箇所を親子でチェックした。その際、通学路を熟知している見守り隊のメンバーは、通学路に立ってアドバイスをした。保護者からは「通学路は意外と危険が潜んでいることを知った」「家族で防災について話すようになった」等有意義であったという意見が多かった。



【PTA親子通学路点検】

③ 見守り隊との合同避難訓練〔見守り隊〕

避難訓練は通常学校だけで行っているが、大災害が起こったり避難勧告が出たりすれば、地域住民も学校へ避難してくる。そのような事態を想定し、見守り隊のメンバーが避難民役となって、地域の人々の手で避難所の開設準備をするまでの訓練を行った。学校にとっては新たな課題を見出すことができ、地域にとっても、備蓄されている物資や耐震貯水槽等の設備を知るよい機会となった。

④ 防災学習〔市関係機関・あま市防災ネット〕

総合的な学習の時間における防災学習を進めるにあたり、市の安全安心課やあま市防災ネットと連携して、児童向けの防災学習を実施した。

防災の専門家を活用することにより、体験的な防災学習プログラムの具体例や、児童に何をどう指導すべきか、はっきりとしたイメージをつかむことができた。



【防災学習】

(2) 交通安全・防犯に関する取組

① 登下校時の見守り活動〔PTA・見守り隊〕

児童を交通事故や犯罪から守り、安心して登下校できるよう、PTAと見守り隊が連携して活動している。登校時は、地域ごとに保護者が交代で、横断歩道に立って指導したり、あいさつ運動をしたりしている。低学年の下校時には、見守り隊やPTAボランティアが付き添い、児童とふれあいながら、地域ぐるみで児童を育てている。

こうした活動は、保護者や地域の人々が学校や児童の様子を知るよい機会となっている。



【見守り隊付き添い下校】

② 情報モラル講演会〔PTA〕

不審者はもちろんのこと、携帯電話やスマートフォンを利用したサイバー犯罪からも児童を守ることは、喫緊の課題である。そこで、愛知県警サイバー犯罪対策室の署員を講師に招き、実際に買い与える立場である保護者向けに、情報モラル講演会を開催した。

当日は300名を超えるPTA会員が熱心に聴く姿が見られ、この問題についての関心の高さが感じられた。



【情報モラル講演会】

③ 伊福学区ハザードマップ〔PTA〕

PTA保健安全委員の活動として、夏休みの校外指導を行っているが、その際に、交通事故や不審者に気がつけた方がよい場所もあわせて調査している。

それらを9月に保健安全委員会で報告し、その中でも特に気をつけるべき場所をハザードマップとしてまとめ、全家庭に配布し、啓発している。



【伊福学区ハザードマップ】

④ 歩道橋清掃・通学路除雪〔PTA〕

学区には2箇所に歩道橋があるが、歩道橋の階段部分は鉄板なので、雨が降ったり砂が上がったりすると、滑りやすい状態になる。転落すると大事故につながりかねないので、PTA役員が交代で定期的に清掃している。

特に、雪が降り積もった日は、歩道橋も道路も大変滑りやすいので、PTA本部役員が歩道橋を、PTA地区役員が中心となって通学路の除雪を行い、登下校の安全確保に努めている。

(3) 校内安全に関する取組

① 運動場除草・側溝清掃 [ながぐつの会・PTA]

ながぐつの会は、元PTA会長等6名の世話人を中心にして、PTA会員に呼びかけて学校の清掃や修繕等を行ったり、親子で楽しめるイベントを企画したりして、学校を側面から支えているおやじの会である。

運動場の南側には芝が繁茂しており、夏にはその一部がトラックの内側まで入り込むため、足をとられて危険な状態になる。また、降雨のたびに土砂が運動場の側溝に流れ込み、水はげが悪い原因になっている。そこで、夏の時期に年2回、ながぐつの会が中心となって、PTAや児童とともに除草や側溝の土揚げ等の作業を行い、安全に運動会が実施できるよう環境整備をしている。



【運動場側溝清掃】

② 遊具の修繕 [ながぐつの会・PTA]

児童が毎日楽しく遊ぶ遊具にも、危険が潜んでいる。運動場に接している部分や、児童がつかんだり踏んだりする部分の塗装ははがれていることが多く、錆びると大きな力がかかったときに破損して、大きな事故につながることもある。こうした事故を防ぐために遊具の塗装は欠かせないが、こうした大がかりな修繕も、ながぐつの会が中心となって行い、児童が安全に遊ぶことができる環境づくりをしている。



【遊具の塗装】

4 おわりに

さまざまな事故や事件が起こっている今日、児童の安全は、学校だけではとても守りきれぬものではない。学校の大きな課題である、安全な環境づくりと自分の命は自分で守ろうとする児童の育成にとって、PTAや地域の人々の援助はとても大きな支えとなっている。また、日々多忙な中でわざわざ時間を割き、地域の子どものため、学校のために、ボランティア活動をしていただく姿には、本当に頭が下がる思いである。今後も、諸機関と連携し、地域の人々と手を取り合って、学校をとりまく諸問題の解決にあたっていきたい。

一方で、学区に住む保護者や住民も、地域の各種団体も、行政機関も、普段はそれぞれ異なる目的をもって、独立して活動している。しかし、地域を背負って立つ次の世代を育てるという共通の目的によって、学校という存在をなかだちに連携が生まれ、絆が深まることもあろう。いつまでも地域に愛される学校づくりをめざして、よりよいPTA活動をしていきたい。

【平成25年度 尾張小中学校 PTA研究発表大会での寸評】

「総合的な安全教育」の視点で、大変意義深い様々な先進的な取組を実践していただきました。PTAが様々な組織との連携を図る中で、安全な環境づくりと自分の命は自分で守ろうとする児童の育成を目指した取組は、今後の地域が関わる防災教育の方向性を示しており、一連の取組は、地域連携の核としての役割を果たしていると感じました。